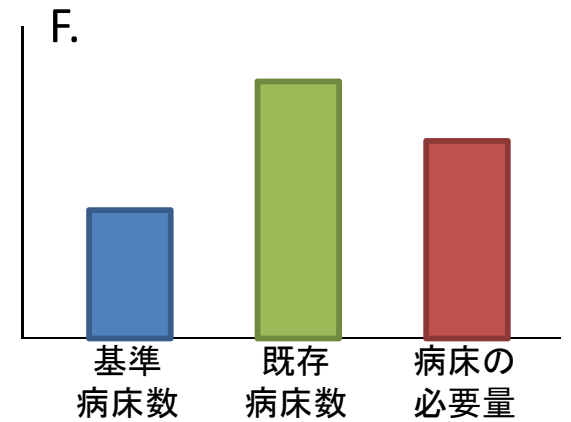
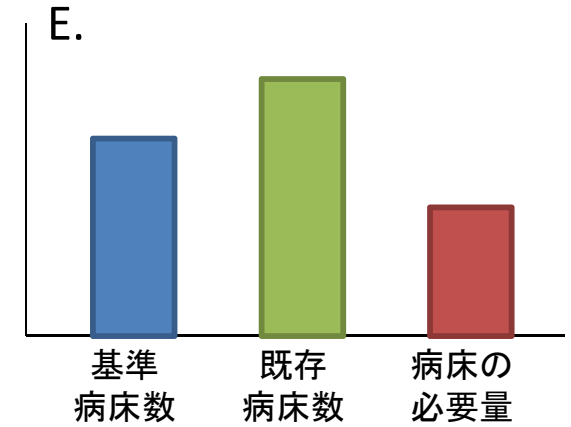
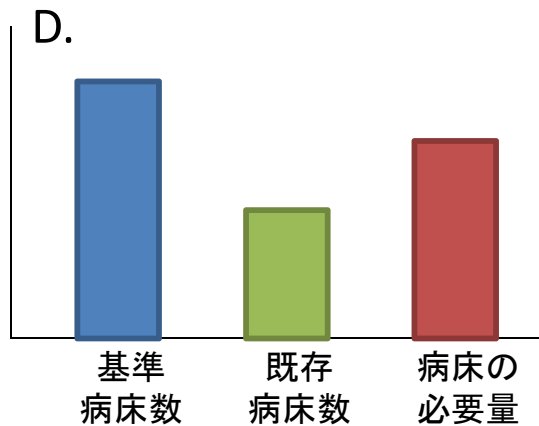
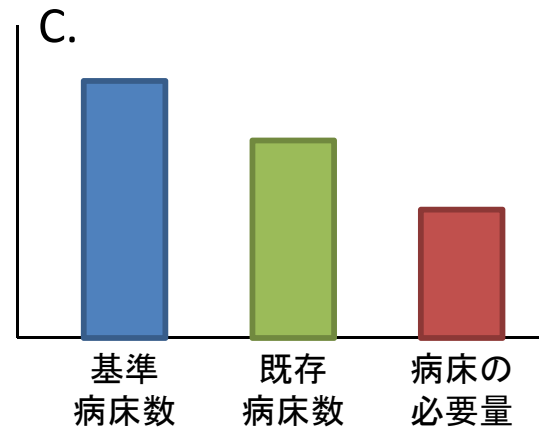
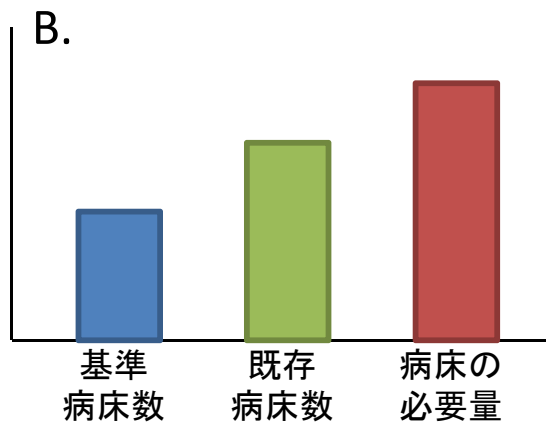
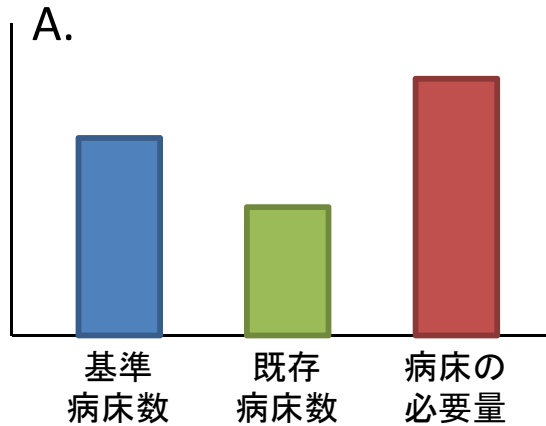


基準病床数と病床の必要量（必要病床数）の パターン別の整理について

基準病床数と病床の必要量等の関係性の分類

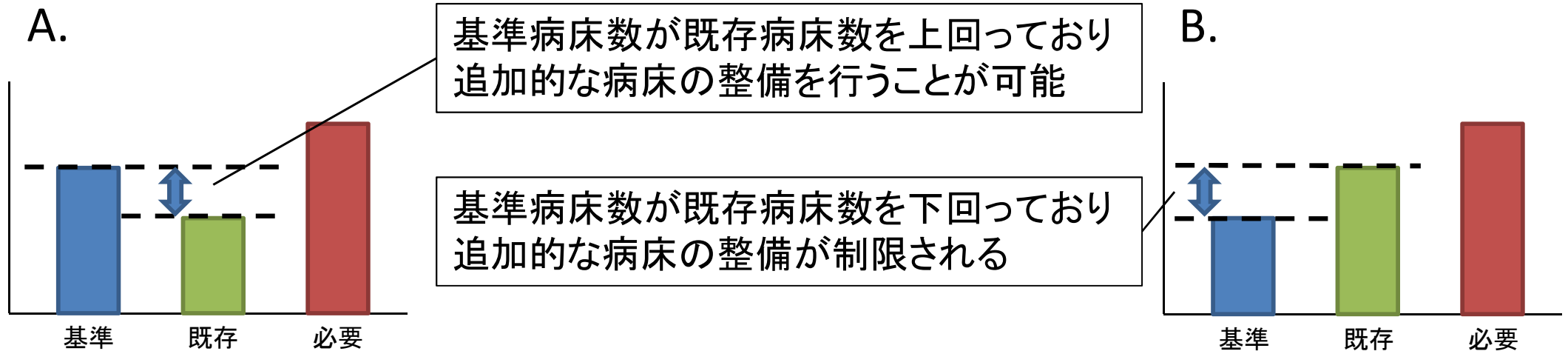
基準病床数、既存病床数及び病床の必要量の関係性は、下記A～Fの6類型に分類できる。

病床の必要量が、基準病床数・既存病床数いずれも上回る



基準病床数と病床の必要量等の類型別特徴 ①

病床の必要量が最も多いタイプ(類型A、B)



・類型A、Bにおいては、将来の医療需要である病床の必要量を考慮した体制整備に際して、基準病床数を超えた医療需要が生じることとなる。

・このようなケースは、今後、更なる高齢化の進展が見込まれる都市部において生じることが想定される。

病床の必要量と基準病床数及び既存病床数の関係

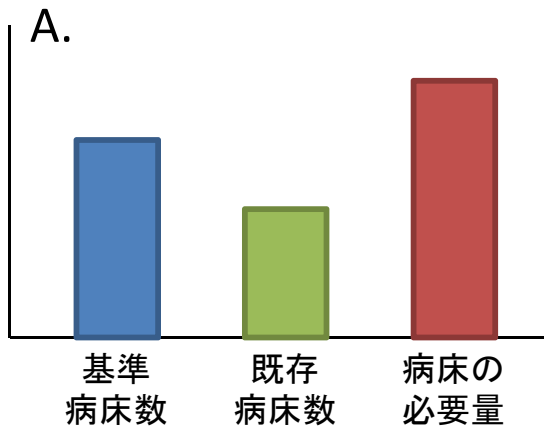
大阪府が策定した地域医療構想における、構想区域ごとの病床の必要量(必要病床数)と、直近の基準病床数及び既存病床数は以下のとおり。

二次医療圏 (構想区域)	基準 病床数	既存病床数			病床の必要量(必要病床数)					類型 分類
		一般	療養	計	高度 急性期	急性期	回復期	慢性期	計	
豊能	7,456	7,422	1,800	9,222	1,436	4,044	3,577	2,421	11,478	B
三島	5,544	5,559	1,095	6,654	956	2,961	2,786	2,410	9,113	B
北河内	9,390	7,817	2,165	9,982	1,197	4,319	4,511	3,083	13,110	B
中河内	5,799	4,556	1,328	5,884	657	2,424	2,759	1,275	7,115	B
南河内	5,174	4,808	1,867	6,675	814	2,515	1,875	1,902	7,106	B
堺市	8,039	5,646	3,850	9,496	991	3,128	2,571	3,202	9,892	B
泉州	8,385	5,092	3,832	8,924	993	2,818	2,623	2,523	8,957	B
大阪市	17,476	26,152	6,446	32,598	4,745	12,838	10,662	6,458	34,703	B

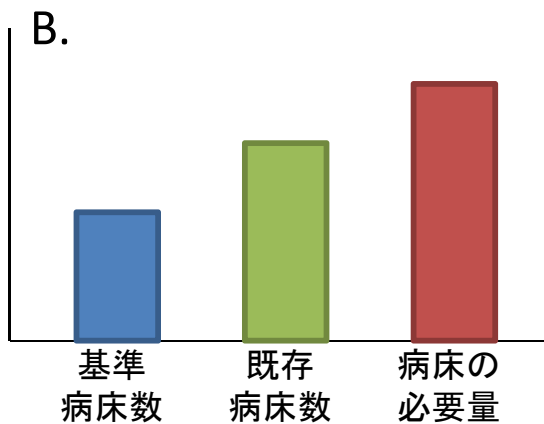
※大阪府より提供(医療計画、地域医療構想等)

大阪府の構想区域ごとの病床数の分類

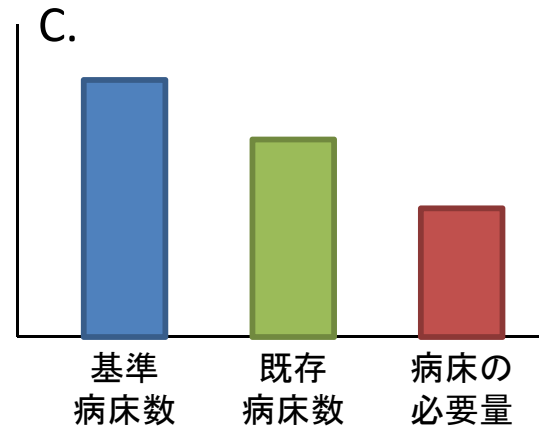
大阪府が策定した地域医療構想における、構想区域ごとの基準病床数、既存病床数及び病床の必要量の関係を図示すると以下のとおり。



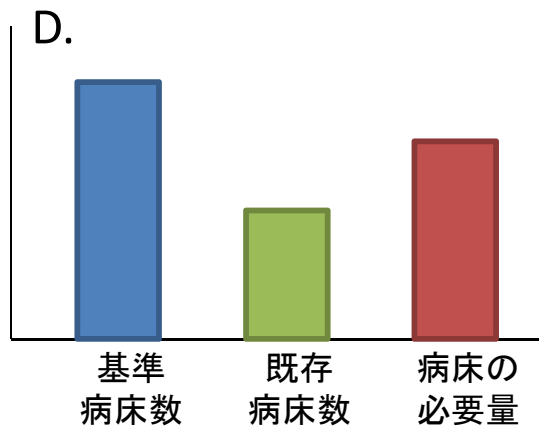
該当なし



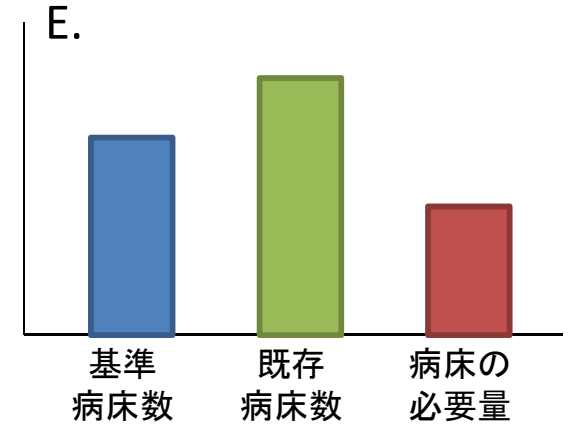
豊能、三島、北河内、中河内
南河内、堺市、泉州、大阪市



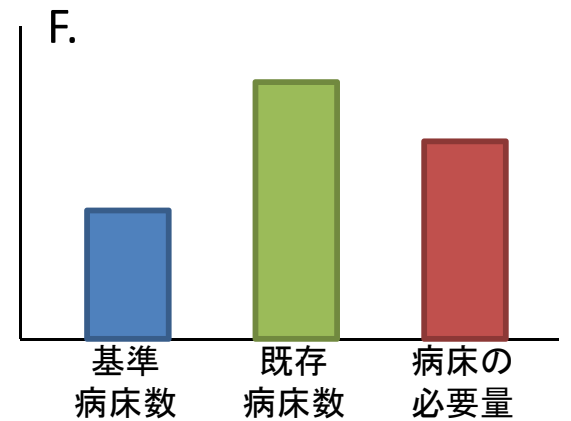
該当なし



該当なし



該当なし

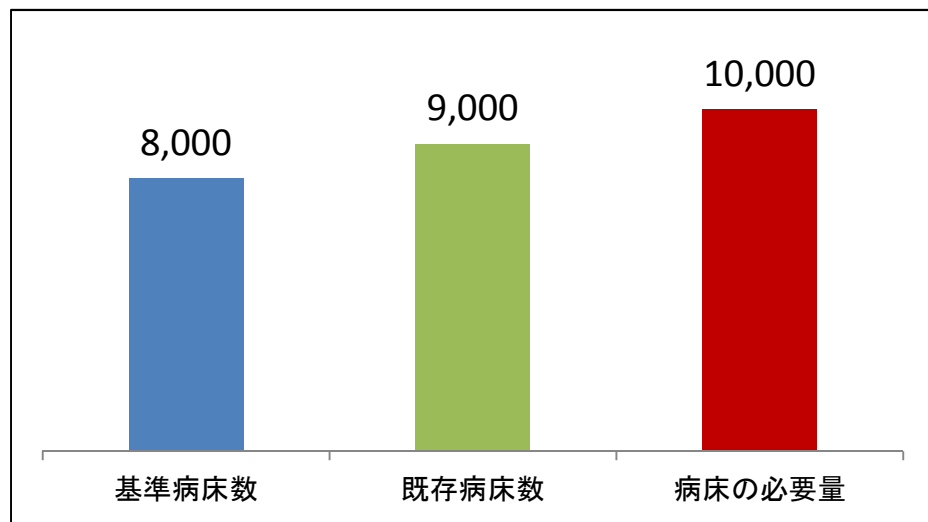


該当なし

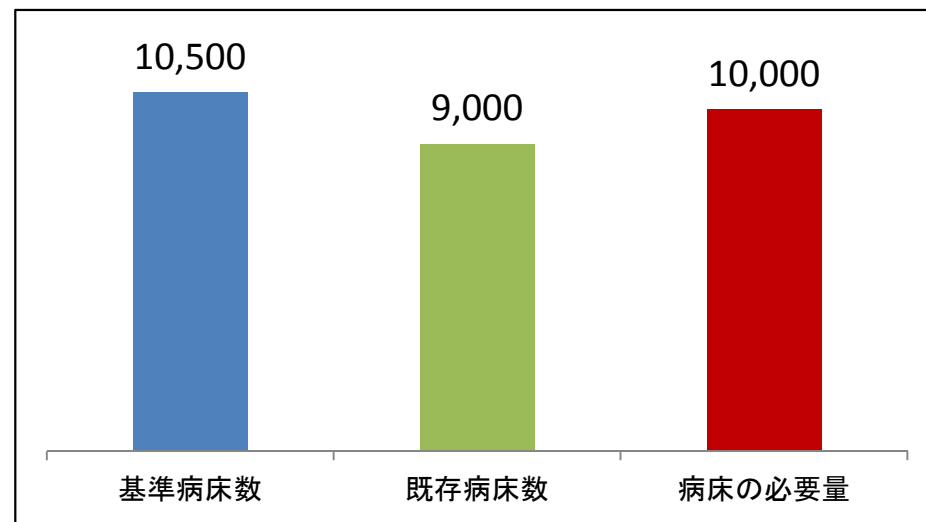
2025年における基準病床数の試算

一定の仮定をおいて、2025年の基準病床数を試算すると以下のとおり。(基準病床数の算定式は現行のものを用いた)

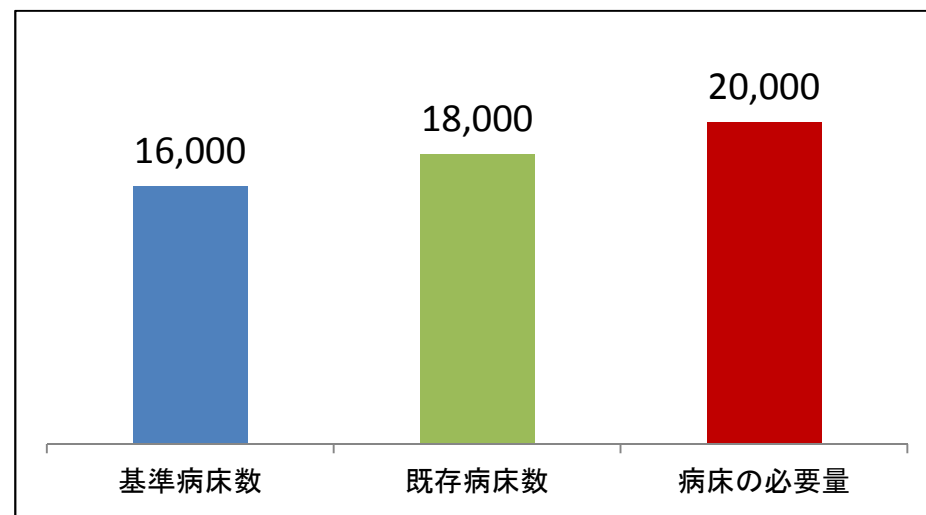
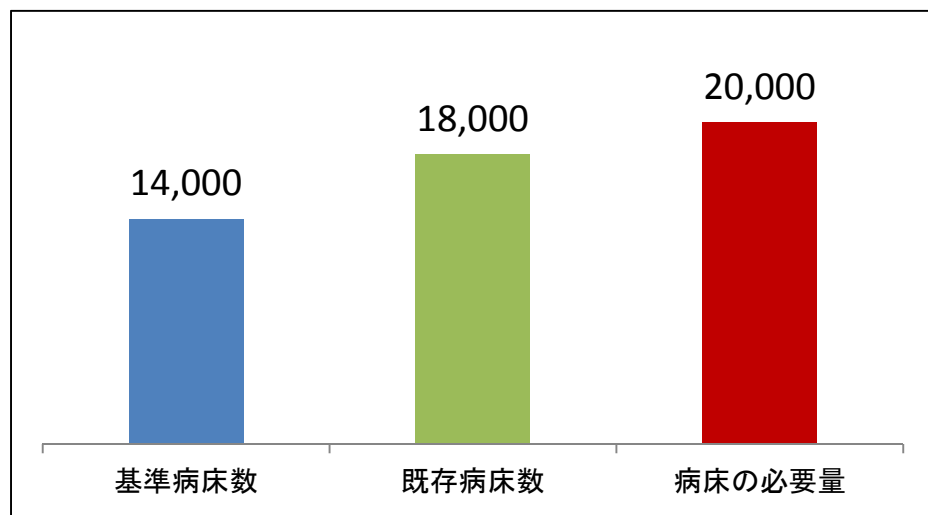
構想区域① 現行の基準病床数



2025年の基準病床数試算値



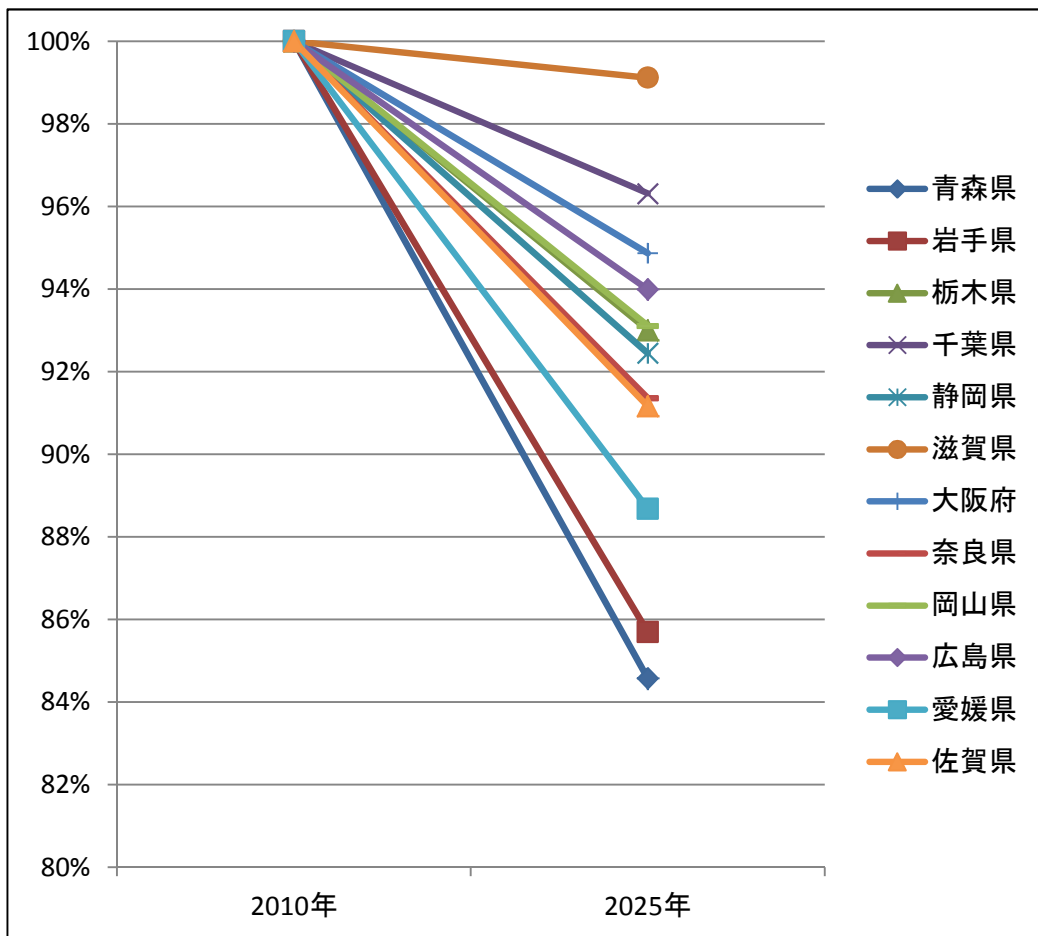
構想区域②



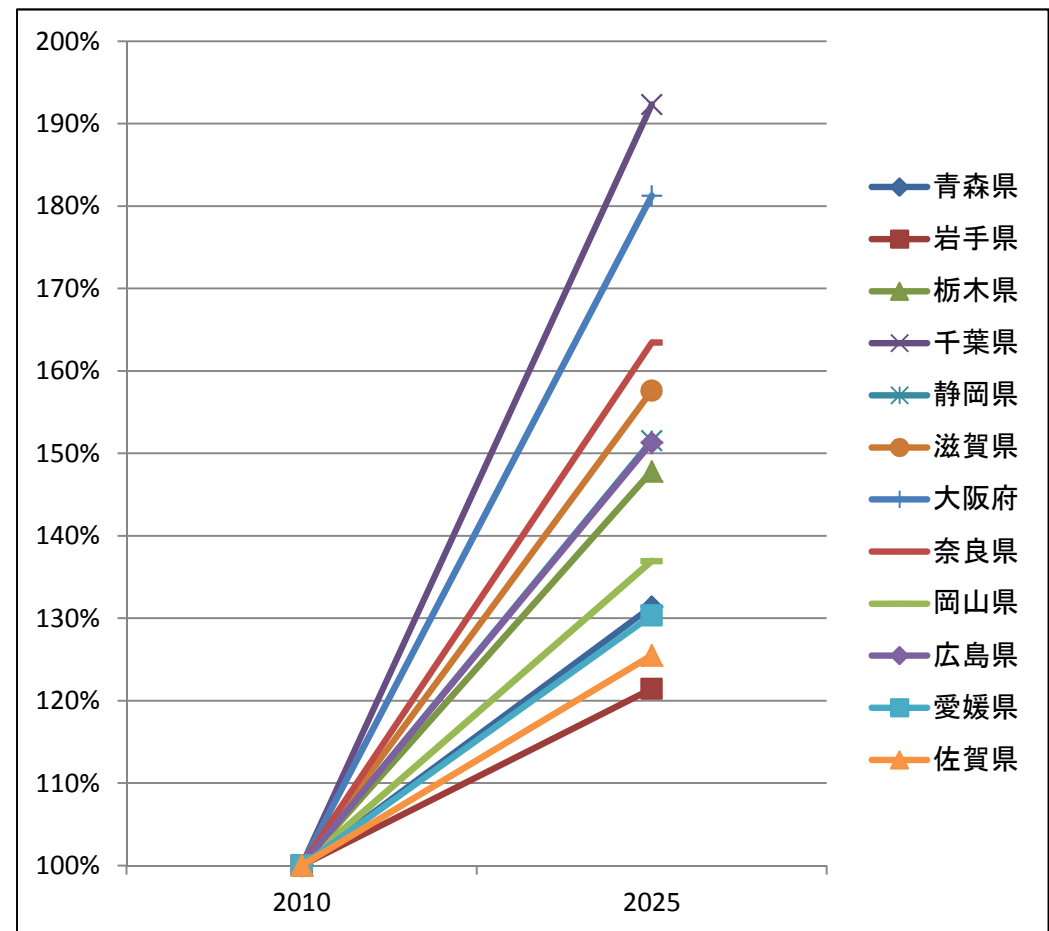
将来の推計人口の推移について

病床数の算出にあたっては、基準となる地域ごとの性・年齢階級別の人口の推移に伴い、算出される病床数に大きな影響が出る。下記は、人口の推移率を示したものであり、大阪府においては、75歳以上人口の増加率が顕著となっている。

人口推移(総数)

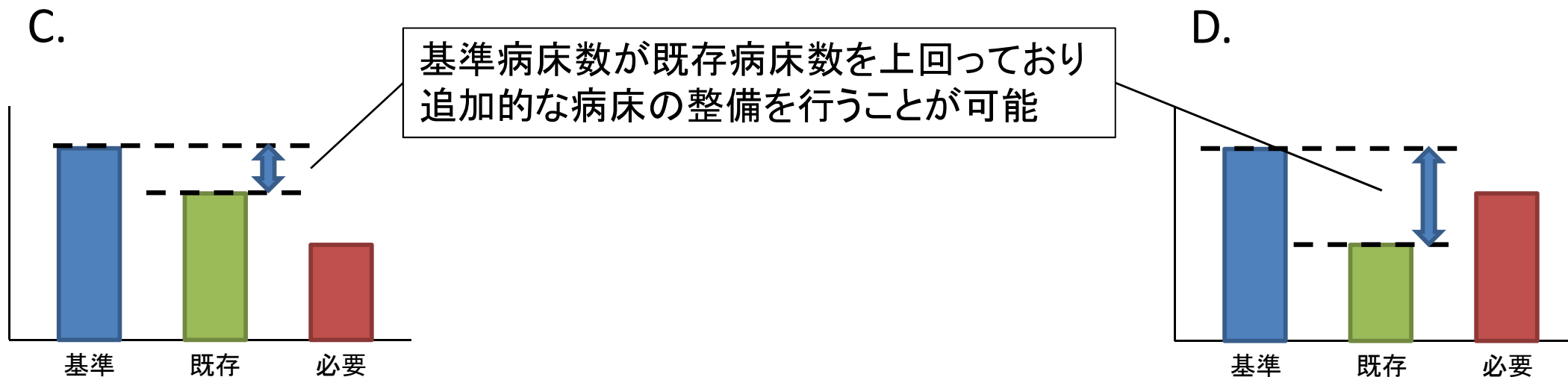


人口推移(75歳以上人口)



基準病床数と病床の必要量等の類型別特徴 ②

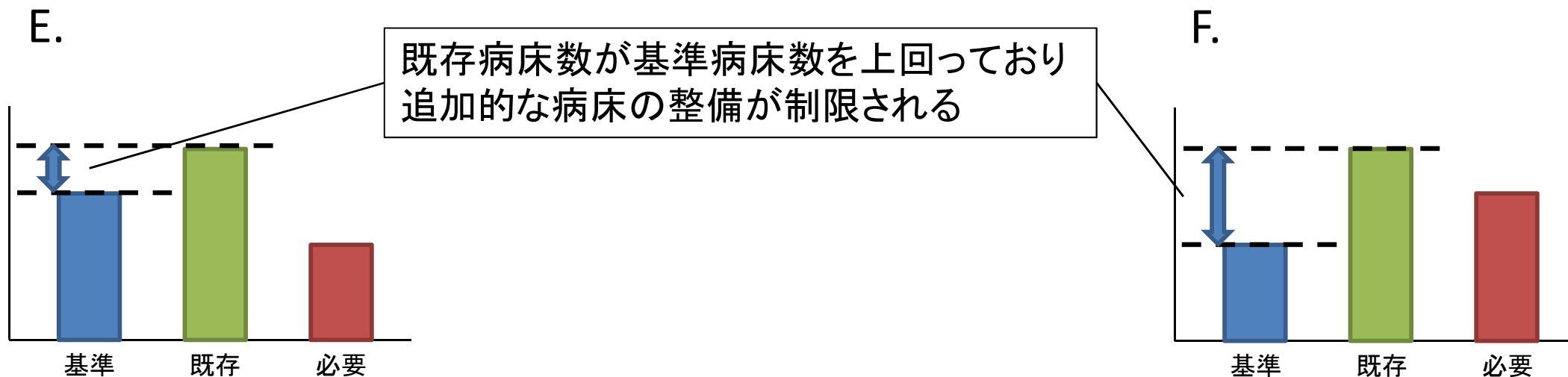
基準病床数が最も多いタイプ(類型C、D)



- ・類型C、Dにおいて、ある時点においては基準病床数が病床の必要量を上回る関係となるが、将来の医療需要である病床の必要量を考慮しながら、体制整備をすることが必要。

基準病床数と病床の必要量等の類型別特徴 ③

既存病床数が最も多いタイプ(類型E、F)



- ・類型E、Fとも、既存病床数が基準病床数、病床の必要量のいずれも上回っている。
- ・将来の医療需要である病床の必要量を考慮しながら、体制整備をすることが必要。

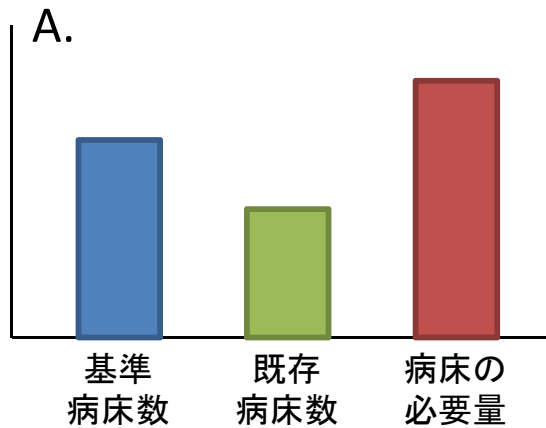
病床の必要量と基準病床数及び既存病床数の関係

青森県が策定した地域医療構想における、構想区域ごとの病床の必要量(必要病床数)と、直近の基準病床数及び既存病床数は以下のとおり。

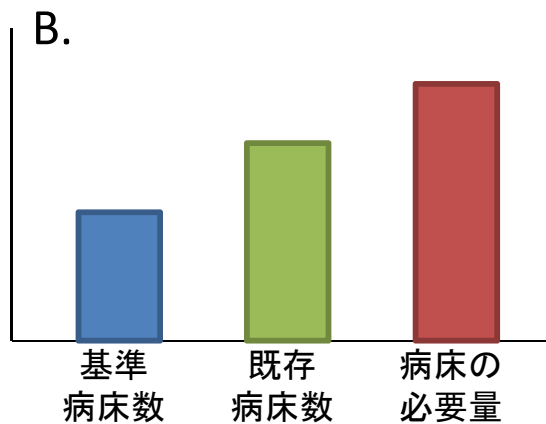
二次医療圏 (構想区域)	基準 病床数	既存病床数			病床の必要量(必要病床数)					類型 分類
		一般	療養	計	高度 急性期	急性期	回復期	慢性期	計	
津軽地域	3,025	3,010	648	3,658	318	1,110	1,244	467	3,139	F
八戸地域	3,164	2,495	617	3,112	323	1,122	1,082	704	3,231	A
青森地域	3,042	2,301	899	3,200	338	900	1,127	659	3,024	E
西北五地域	755	610	591	1,201	43	270	246	245	804	F
上十三地域	939	1,016	187	1,203	96	506	371	203	1,176	F
下北地域	395	443	120	563	39	162	168	84	453	F

青森県の構想区域ごとの病床数の分類

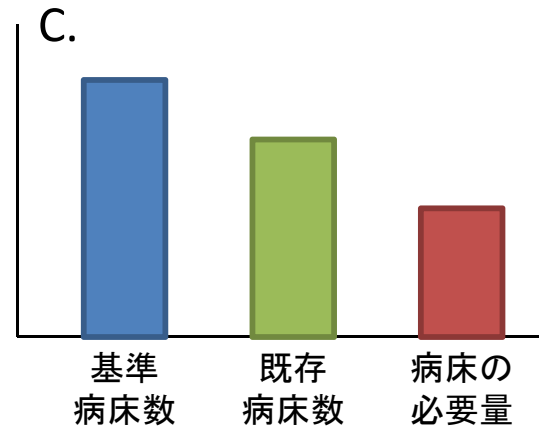
青森県が策定した地域医療構想における、構想区域ごとの基準病床数、既存病床数及び病床の必要量の関係を図示すると以下のとおり。



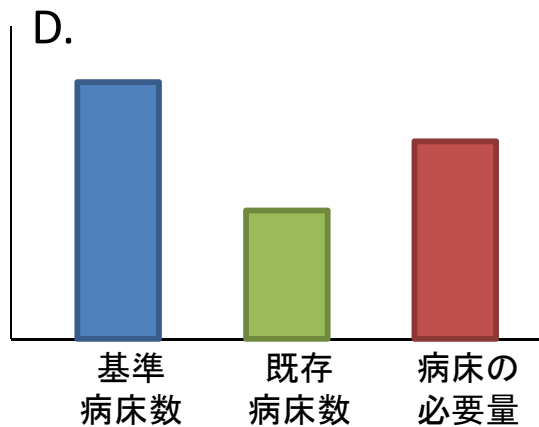
八戸



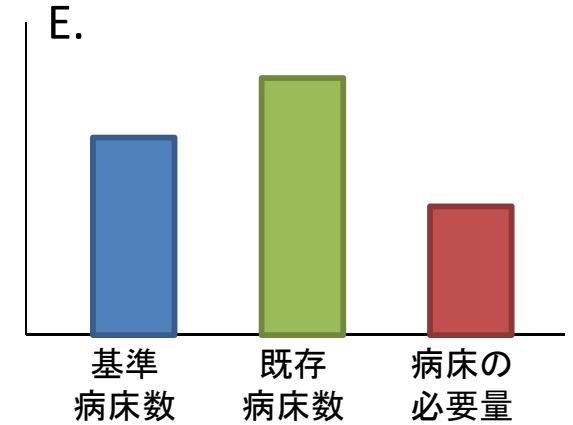
該当なし



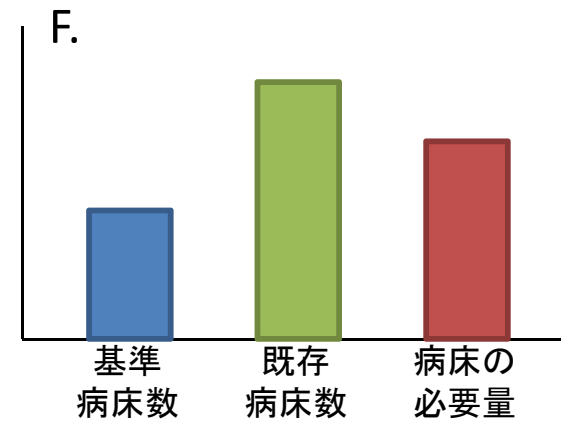
該当なし



該当なし



青森



津軽、西北五、
上十三、下北

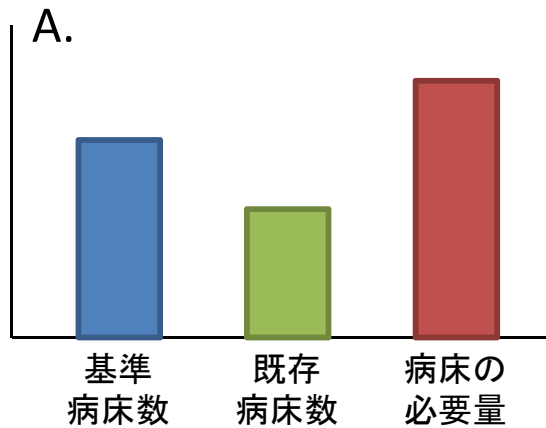
病床の必要量と基準病床数及び既存病床数の関係

岡山県が策定した地域医療構想における、構想区域ごとの病床の必要量(必要病床数)と、直近の基準病床数及び既存病床数は以下のとおり。

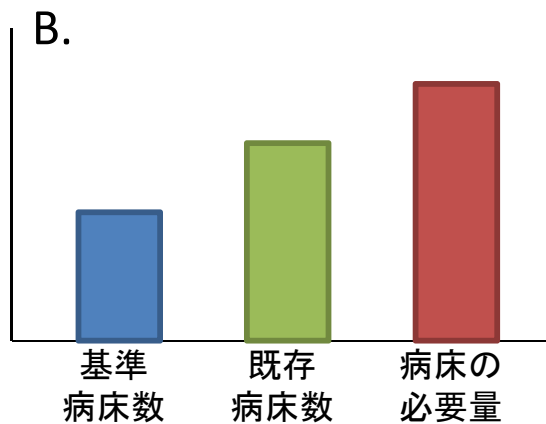
二次医療圏 (構想区域)	基準 病床数	既存病床数			病床の必要量(必要病床数)					類型 分類
		一般	療養	計	高度 急性期	急性期	回復期	慢性期	計	
県南東部	8,940	8,187	1,932	10,119	1,187	3,335	2,927	2,029	9,478	F
県南西部	7,463	6,514	1,895	8,409	888	2,722	2,761	1,866	8,237	F
高梁・新見	310	399	360	759	17	123	134	192	466	F
真庭	450	444	176	620	25	157	175	106	463	F
津山・英田	1,618	1,179	793	1,972	132	501	483	414	1,530	E

岡山県の構想区域ごとの病床数の分類

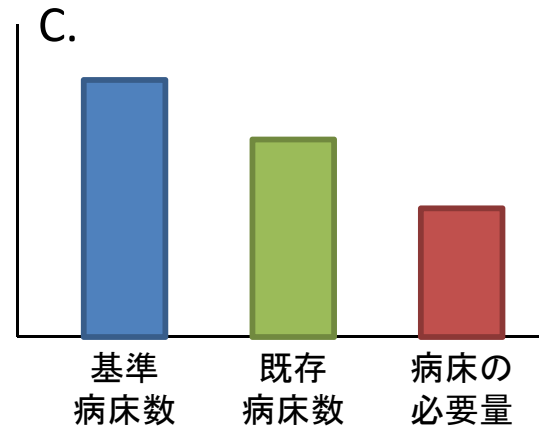
岡山県が策定した地域医療構想における、構想区域ごとの基準病床数、既存病床数及び病床の必要量の関係を図示すると以下のとおり。



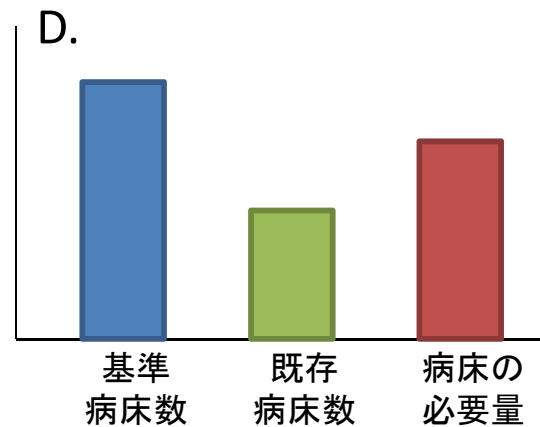
該当なし



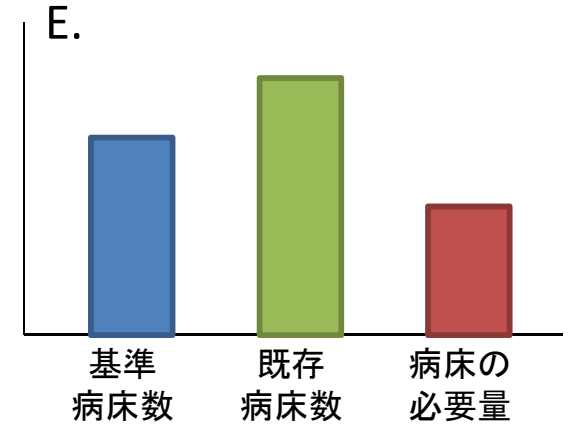
該当なし



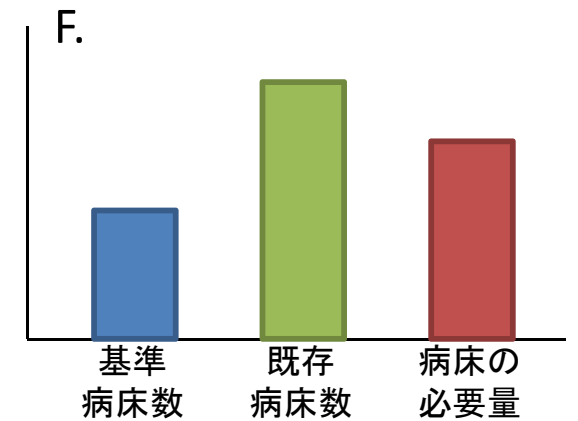
該当なし



該当なし



津山・英田



県南東部、県南西部、
高梁・新見、真庭

病床の必要量(必要病床数)、基準病床数及び既存病床数の関係性を踏まえた対応(案)

- 将来の医療需要の推移を踏まえた、病床の必要量(必要病床数)は、各地域の人口推移の影響を大きく受ける。
- 特に、今後高齢化が更に進む地域においては、医療需要の増加が大きく見込まれ、それに応じた医療提供体制の整備が求められる。
- このことは、急激な人口増加が見込まれる場合に、基準病床数の算定に対し、特例を認めている医療法第30条の4第7項の規定の趣旨に合致するものと考えられる。

病床過剰地域で、病床の必要量(必要病床数)が将来においても既存病床数を大きく上回ると見込まれる場合は、

- ① 高齢化の進展等に伴う医療需要の増加を毎年評価するなど、基準病床数を確認することや、
- ② 医療法第30条の4第7項の基準病床数算定時の特例措置で対応することとしてはどうか。

医療法(抄)

第30条の4

7 都道府県は、第二項第十四号に規定する基準病床数を定めようとする場合において、急激な人口の増加が見込まれることその他の政令で定める事情があるときは、政令で定めるところにより、同号に規定する基準病床数に関し、前項の基準によらないことができる。